

総論

満点	100点	目標得点	74点	試験時間	60分	偏差値	法律:76 政治:75
大問数	4	小問数	50				
【解答形式】		選択式	50/50問	記述式	0/50問	論述式	0/50問
【問題難易度】		C	9/50問	B	18/50問	A	23/50問
※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：空欄補充と単答形式が合計で50題。全て語句選択によるもので傾向の変化なし。
- 2：お茶ゼミの冬期講習の範囲から全大問が出題された。
- 3：時事問題がテーマとして選ばれた。

こんな力が求められる！

今年度の慶應義塾大学法学部の出題テーマはアメリカの黒人史・朝鮮史・ローマ教皇史・パレスチナ史であった。テーマだけを見てもわかるように現在の世界の展開を見据えた出題がなされている。アメリカのオバマ大統領の当選は2008年秋のことであるが、作問のことを考えると、1年後の出題ということになる。ということは2009年後半期におこった出来事から2010年前半までに発生した世界的な事象は、出題のテーマとなる可能性が高いので、普段から新聞やニュースで時事的な情報に接していることが必要である。なお、例年、文化史の大問が1題出題されていたが、今年度は姿を消した。それに代わって、朝鮮史において、かなり詳細な文化史の知識を問う設問が設定された。

出題傾向は最近、変化していない。リード文の空欄補充と、下線部に関する単答で、60個程度の選択肢から解答をするというパターンである。解答は必ず選択肢の中にあるのであるから、リード文を丁寧に読んで、解答への手がかりを探しだした上で、解答できるものから解答を作っていく、最終的には消去法で正答を導いていくとよいだろう。知識を持っている、持っていないという、単なる暗記力だけに頼るようなことはやめないといけない。

確かに本学の出題方式では、知識重視の傾向が強い。とはいっても、『用語集』の見出し語に出ている語句だけが出題されるわけではない。その説明文や周辺の事項にも気を配っていくことが必要である。まず、幹となるしっかりとした歴史知識を確立すること。その上で、歴史的な因果関係を把握しなくてはならない。お茶ゼミのカリキュラムでは、前半期に通史を、後半期に各国史を学習していく。しばしば「夏までに通史を完成させろ」と指導する言葉を聞くが、お茶ゼミのカリキュラムではそれが可能である。細かい知識や、テーマ史的な事項については秋口からどんどん吸収していけばよいので、まずは通史をしっかり固めていこう。

### 【問題Ⅰ】

予想配点	26/100点	時間配分の目安	17/60分
出題分野・テーマ	アメリカ合衆国の黒人の歴史		
出題形式	空欄補充、単答		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (01)(02)A (03)(04)A (05)(06)B (07)(08)B (09)(10)B (11)(12)B (13)(14)A (15)(16)A (17)(18)C (19)(20)A (21)(22)B (23)(24)C (25)(26)A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・冬期講習「アメリカ史」		

### ●本大問の特徴・概要

2009年1月にアメリカ合衆国大統領として初の黒人であるオバマが就任した。それを踏まえての時事的な大問。空欄補充が8題、単答形式が5題で全て65個の選択肢の中からの選択問題である。慶應義塾大学法学部の出題はこの方式にこだわっているため、ある意味、対策が立てやすいだろう。

### ●注目すべき小問

#### [C難問]

- (17)(18)お茶ゼミのテキストには記載されているが、難問。奴隷貿易の廃止に尽力したという部分がヒントである。
- (23)(24)山川出版社の用語集には頻度①で記載されている。慶應義塾大学の設問では、用語集の頻度が少ない用語を狙って出題する傾向もある。受験の直前にその様な用語だけを一覧にしてみるのが、一つの対策でもある。

#### [B合否を分ける問題]

- (05)(06)民主党がジャクソン支持派の流れにあることがわかれば、反ジャクソン派、つまりホイッグ党に行き着くだろう。ホイッグ党はイギリスのものが有名だが、アメリカにもある。
- (07)(08)アメリカ大統領には戦争で活躍した人物が数多く就任している。グラントもその一人。南軍の將軍リーとセットで把握しておくことよいらろう。
- (09)(10)早慶レベルの入試ではアメリカへの移民の違いを問う問題が頻出している。西欧・北欧中心の旧移民、南欧・東欧中心の新移民、そしてアジアからの移民を区別しておくこと。
- (11)(12)これも早慶では頻出の事項である。2009年度にも慶應義塾大学の経済・商学部で、早稲田大学の国際教養学部で出題されている。自分が志望する学部だけではなく、同じ大学の他学部の過去問を解くことが対策にもなってくる。
- (21)(22)ハブスブルク家の出身である。フランス皇帝ナポレオン3世の方が当然著名だが、押さえておいた方が良い人物である。なお、このときのフランスの干渉に抵抗したのがファレスである。

#### [A正答すべき問題]

- (15)(16)Aの問題は完答してくれないと合格はつらいだろう。この問題の解答の「偉大な社会」はジョンソンのスローガンでもある。アメリカの歴代大統領のスローガンもおさえておいて欲しい知識である。

## 【問題Ⅱ】

予想配点 24/100 点	時間配分の目安 13/60 分
出題分野・テーマ 朝鮮半島史	
出題形式 空欄補充、単答	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (27)(28) A (29)(30) A (31)(32) B (33)(34) C (35)(36) A (37)(38) C (39)(40) C (41)(42) A (43)(44) B (45)(46) A (47)(48) B (49)(50) B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・冬期講習「中国周辺史」	

### ●本大問の特徴・概要

今年 2010 年は日韓併合 100 周年である。そのために朝鮮史の出題が増加するのではないかという予想が立てられたが、案の定というべきか、安直にというべきか、朝鮮半島の通史が出題された。周辺地域史はつい後回しにしがちな分野であり、かつ本問で問われている事象は必ずしも容易に解答できるものばかりではないので、大きく差がついたのではないだろうか。解答の形式は他と変わらず、空欄補充が 9 題、単答が 3 題で、60 個の選択肢から選ぶ。なお朝鮮史が出題されたためか、例年出題されていた中国史の大問は出題されなかった。

### ●注目すべき小問

#### [C 難問]

- (33)(34) 今年度の法学部の出題で一番の難問だろう。測雨計は蔣英実によって発明された。「朝鮮」で「発明された」ものとして金属活字に流れてしまった受験生もいただろうが、初の金属活字の発明は高麗である。他の解答を行なった後に、解答となりそうな候補を絞り込んでから考えていくと、正解にたどり着くかもしれない。
- (37)(38) これも難問。三・一運動の影響を受けて大韓民国臨時政府が上海に樹立されたことは、過去に上智大学でも出題されている。
- (39)(40) 朝鮮史を勉強した人の中で、李承晩を知らないという人はいないだろうが、本問のように作問されると、正解率は低くなるだろう。朝鮮人民共和国の名前すら知らないという人も多いと思う。上記の 3 題のうち、1 題でもできていればラッキーと考えておこう。

#### [B 合否を分ける問題]

- (31)(32) 新羅の仏教美術というと、真っ先に仏国寺が思い浮かぶが、慶州郊外の石窟庵も名が知られている。とはいえ、正解を知っている人は少なかつただろう。お茶ゼミのテキストでは『中国周辺史』に記載されているが、やや難の問題である。
- (43)(44) 北朝鮮の指導精神であり、他に思い浮かぶ解答もないのであるから、できれば正解して欲しい問題である。「チュチェ思想」ともいう。
- (47)(48) 選択肢の中から戦後の独立国を探し、国名が変更されているか確認する作業のなかで正解にたどり着けるのではないだろうか。スリランカ（旧セイロン）では長年続いた内戦が 2009 年に終結した。その点でも時事的な問題だといえる。
- (49)(50) これもやや難の問題。六カ国協議も時事的な出題である。普段から国際情勢に接していることが必要となる。

## 【問題Ⅲ】

予想配点	26/100 点	時間配分の目安	17/60 分
出題分野・テーマ	ローマ教皇の歴史		
出題形式	空欄補充、単答		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (51) (52) A (53) (54) B (55) (56) B (57) (58) C (59) (60) C (61) (62) A (63) (64) A (65) (66) C (67) (68) B (69) (70) A (71) (72) B (73) (74) A (75) (76) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・冬期講習「地中海周辺史」		

### ●本大問の特徴・概要

ローマ教皇史からの出題。例年、上智大学ではキリスト教史の出題が恒例であるので、併願している受験生にとっては有利にはたらいただろう。また近現代史の比重の高い本学部にはは古代・中世にまでさかのぼって出題しているので、とまどった人もいるかもしれない。出題形式は他と同じで、空欄補充が8題、単答が5題、やはり65個の選択肢からの解答となる。

### ●注目すべき小問

#### [C難問]

- (57) (58) ナポレオンの戴冠式に立ち会ったローマ教皇というだけでは難問だろう。ナポレオンとローマ教皇との関係を考えて、ラテラノ（ラテラン）条約に気がつけば、その時期のローマ教皇として解答できるだろう。
- (59) (60) イタリアの統一運動を「リソルジメント」（「復興」という意味である）という。冬期講習の『地中海周辺史』には記載されているが、見落としがちなる用語である。
- (65) (66) ポーランドの自由化運動では、通常は「連帯」の指導者ワレサが出題されるが、ここでは「連帯」を抑圧したヤルゼルスキ（自由化後にはポーランドの大統領となる）が出題された。難問であるし、とまどった受験生も多かっただろう。

#### [B合否を分ける問題]

- (53) (54) アッティラはフン人の王として基本用語だが、ローマ司教レオ1世に説得されたという形式で作問されると、答えられなくなってしまう。5世紀の半ばという時期から、フン人の活動期だと認識できるといいのだが。アッティラが敗れたカタラウヌムの戦いは451年であり、その後イタリア半島への侵入を企てたが、レオ1世の説得で断念している。
- (55) (56) 教皇によって解散させられた団体と考えると、わかりづらくなるが、「対抗宗教改革の中心的な役割を担った」という部分から判断すると良い。
- (67) (68) これも解答そのものは頻出の用語であるが、テンプル騎士団を解散させたという変化球的な作問の仕方難しくしている。慶應義塾大学の問題は、用語集の説明の中から出題のヒントを探す物も多い。面倒くさながらに用語集を丁寧に読み込んでいくことが必要である。
- (71) (72) 正解のジギスムントは神聖ローマ皇帝カール4世（金印勅書の発布で知られる）の息子にあたるルクセンブルク家の皇帝。むしろハンガリー王としてオスマン帝国に対する連合十字軍を率いたが、ニコポリスの戦い（1396）でパヤジット1世に敗れたことの方が有名だろう。

## 【問題Ⅳ】

予想配点	24/100 点	時間配分の目安	13/60 分
出題分野・テーマ	パレスチナ問題		
出題形式	空欄補充、単答		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (77)(78)A (79)(80)A (81)(82)A (83)(84)A (85)(86)A (87)(88)A (89)(90)B (91)(92)B (93)(94)B (95)(96)C (97)(98)B (99)(100)B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・冬期講習「イスラーム史Ⅱ」		

### ●本大問の特徴・概要

これも時事的な出題である。シオニズム運動の始まりからのパレスチナ史であり、いくつかの細かい事項も出題されていたが、頻出の分野だけにきちんと対策が取れている人にとっては対応しやすかっただろう。空欄補充が6題、単答が6題であり、他に比べたら空欄補充の比重が低い。選択肢の総数は60である。

### ●注目すべき小問

#### [C難問]

(95)(96) 中東和平については、一旦和平が実現するかに見えて、また対立が再燃することが繰り返されている。そのため和平への努力がむなしくも感じられる面もある。中東和平会議は、冷戦の終結後の1991年10月に開催された。中東問題に関わるイスラエル、周辺のアラブ諸国、そしてPLOが初めて一堂に会したという点に意義があった。

#### [B合否を分ける問題]

(89)(90) ドレフュス事件はドイツへの復讐心と反ユダヤ主義が背景となって発生した軍部による冤罪事件である。無罪との証拠が見つかるにも関わらず、ユダヤ人であることで罪を着せられ続けたということがユダヤ社会に大きな衝撃を与えたのである。ヘルツルによってシオニズムの運動が開始されると、バーゼルで第1回シオニスト会議が開催された。

(91)(92) フセインとは、イギリスの高等弁務官マクマホンとの間にアラブ人独立の協定を結んだアラブの民族運動指導者である。ハーシム家の末裔でメッカの支配者ともされる。1916年にアラビア半島西岸に王国を建て、独立を宣言したが、1924年にイブン=サウード(アブド=アルアジーズ)のネジド王国に併合された。ネジド王国はヒジャーズ=ネジド王国となり、1932年にサウジアラビア王国となった。

(93)(94) イーデンはジュネーヴ四巨頭会談(1955)に出席したイギリス首相として知られるが、フランス・イスラエルとともに行なったスエズ出兵(1956、第2次中東戦争、ブタペスト暴動にソ連軍が介入した混乱を利用して出兵した)が、国際的な非難にさらされた責任をとって辞任した。

(97)(98) パレスチナ暫定自治協定は別名をオスロ合意という。これはノルウェーが仲介したためであるが、協定そのものが調印されたのはアメリカ合衆国のワシントンである。アメリカ大統領クリントン、イスラエル首相ラビン、PLOのアラファト議長が調印したが、ラビンは1995年11月に極右ユダヤ人に暗殺された。

(99)(100) パレスチナ暫定自治協定で自治が承認されたのはガザ地区とヨルダン川西岸のイエリコである。なお、この都市の近郊では農耕・牧畜が開始された頃の遺跡も発見されている。